

『キリストによる平和の実現』 エペソ人への手紙2章11～17 2015.11.15(主日礼拝説教より)

『平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれる…』 マタイの福音書 5章9節

◆平和には3種類あるという。①国家的平和…圧倒的な力で相手を脅して実現する(「核抑止力」のように)。力で脅す平和は、力で壊される。次は②個人的平和…嫌なものから離れ、心乱すものを避けて得る平和。本当の平和は③共同体的・社会的平和…神と人、人と人が仲良く関わる平和。たとえゴタゴタしても、いつも立ち返るべき「平和の土台」がある！それは、『キリストこそ私たちの平和(14節)』。

◆平和を妨げるもの…『隔ての壁(14)／敵意(15)』…がある。神は私たち一人ひとりを、あえて「違う者」として創り、互いに助け合うことで世が完成しようとされた(ジグソーパズルのように)。しかし私たちは、違いを認めず、自分を誇り、時に自分とやり方の違う人を嫌い、見下し、敵意を抱く…。『敵意』とは、「自分」を否定するものを排除しようとする自己防衛本能！であり、罪そのものである。その最悪の例が「ユダヤ人 vs 異邦人」。神はユダヤ人の不信仰を「異邦人」を用いて裁き、苦しめ、神に立ち返らせようとした。しかしユダヤ人は謙虚に神の御旨を受け入れるどころか、異邦人を逆恨みし、律法を守らぬ者として見下した。その「敵意」は、私たちの心と日常の中にあり、人間関係を壊していく！

◆キリストは、その敵意の原因である「戒めの律法」を全て廃棄し、敵意を滅ぼされた！つまり救いは律法によらず、『イエス・キリストを信じる』信仰のみ(恵み)によると宣言された！

◆この罪の世に『平和の君』が誕生したクリスマス之夜、天使たちは讚美した『天には神に栄光！地には御心にかなう人々に平和があるように』と。私たちが平和の君イエスの栄光を仰いだ後、この地を見る時、そこには「望みもなく、神もない人々(12節)」が見える。私たちはその方々の慰めを願い「平和があるように」と祈るために救われたのである。それはもはや律法(義務)ではなく、せずにはおれない愛のわざ！神に愛され、罪赦された者は、この地の平和を祈り、人間関係に「好意」をもたらずピースメーカーなのである。